

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272900430		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームはつとみ		
所在地	鎌ヶ谷市初富204-4		
自己評価作成日	平成29年3月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成29年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に安心安全な生活を提供できるよう医療面の充実を図りご家族と施設が密に連絡を取り人生の最後まで笑顔で暮らして頂ける様努めます。日々充実した生活を送って頂ける様レクリエーションイベントを定期的に行います。職員が同じ目標を持ち日々笑顔で入居者様に接することが出来るようにします。はつとみのスローガンの(あふれる笑顔)を実践していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年の2階建て2ユニットのグループホームである。三方を梨園に囲まれ、春に咲く白い花は利用者にとって原風景であり、現風景ともなっている。ホームはボランティアの来訪に力を入れ、今では年間計画が立てられるほどに充実しており、ホームの自慢の一つとなっている。レクリエーションを楽しむ利用者の表情は普段と別人のように、生き生きとして笑顔にあふれていた。施設長は市内に4つあるグループホームと連携して「グループホーム協議会」を立ち上げ、交互に訪問して意見交換することで職員のレベルアップを図るなどリーダーシップを発揮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の実施時に理念の唱和、ケアネット及び施設スローガンの唱和を実践しています	法人の理念「生命を安心して預けられる施設」に加え、施設長を中心に、職員で作った「あふれる笑顔」をホームのスローガンとして日々胸に刻み、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホーム協議会二年目に入り情報交換から実践に移り、市地域包括と連携し職員の教育の充実をはかっていきます。また4ホームの連携も密にとっていきます。	市内の全4グループホームと連携して「グループホーム協議会」を立ち上げ、相互訪問の形で話し合いを行っている。情報交換だけでなく、課題を持ち寄り議論することで職員のレベルアップにつなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	エコキャップ3年目で近隣の方もゴミ置き場の箱に入れて頂けるようになり、地域のイベントにも招待状がくるようになりました。今後もより深い繋がりが出来るようにしていきます。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、包括支援センター、ご家族、ボランティアハモニカ演奏の方など色々な方が参加し意見交換して頂いています。今後も参加人数を増やす努力をしています。	2か月ごとに開催している。ヒヤリハットもオープンに報告し、市や家族からも職員の気づきの細やかさに対して賛辞が贈られている。会議を通して民生委員との協力関係が出来、地域の集まりにも招待されている。	開催曜日を平日にするか休日にするかはどのホームでも共通の課題のようである。グループホーム協議会でも地域包括支援センターの協力も得て話し合われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢者福祉課、包括支援センター訪問看護、鎌ヶ谷総合病院居宅医療に新しく24時間居宅医療専門クリニックを加え相互に連携しながら協力してサービスに取り組んでいます。	運営推進会議では市や地域包括支援センター職員が積極的に議論に加わっている。市内のグループホームが少ないこともあって、高齢者福祉課は協力的で、なんでも相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしておりません。外部内部研修をし職員へ身体、言葉の拘束禁止を教育しております。	制止の言葉は身体拘束だと理解していてもつい出てしまうものなので、繰り返し教育している。外部研修の希望者には積極的に受講の支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じ虐待禁止を徹底、施設内で虐待はありません。今後も外部内部研修により教育をしていきます。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画で学んでおります。次年度もより深く学習して行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解納得をして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族入居者様の出席や家族会の開催で28年度も意見交換、要望をお聞きする場を設けました。また来訪時には直接お話をお聞きして運営に反映させております。	来訪時など機会をとらえてホームの状況を家族に伝え、意見交換をしている。今回のアンケート調査では昨年度を大幅に上回る、90%の家族から回答を得ている。	今回回答率が大幅に向上したことは、日ごろのホームのオープンで親身な実践の結果ととらえ、職員のモチベーションの向上に繋がっていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年職員に直接本部あての封書を渡しアンケート及び意見提案を記入してもらっています。	法人は傘下の百を超える施設の職員に対し独自のアンケート調査や意見の吸い上げを行って運営に反映させている。ホームでは施設長が資格取得や外部研修参加など、キャリアアップの相談にのっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足もほぼ解消しています。現在は職場環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前年同様月1回の外部研修参加と月2回の内部研修は必修、またより多くの研修の機会確保に努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会にて職員のレベルアップの研修会を初めて実施しました。今後も継続していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ケアプラン更新時は必ず計画作成担当より入居者様とご家族に意向を伺い反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に計画作成担当者がご本人、ご家族に意向を伺いケアプランに入れていきます。小さな事でもお話いただける関係を築くように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様に当施設で受けられるサービスを説明しそのサービスが適切に受けられるよう助言しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に入居者様と密に関わりながらご家族来設時に情報を共有するように努めています。いつも入居者様の意向に耳を傾けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来設時には介護記録を開示し、日々の暮らしを見て頂く事でここでの暮らしを理解して頂けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今でも他施設に移った方が遊びに来てくれます。 また、お一人暮らしであった入居者様の近所のかた数人が訪ねてくれます。	開設当初からの利用者も多く、最近は家族の訪問が多くなっている。オープンで親身な日常とあふれる笑顔の対応の実践で、近所の方々や他施設に移った元利用者が時折訪れて、お茶を啜りながら旧交を温めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お隣同士でお話が弾む姿や笑い声がいつも聞こえてえています。職員はつかず離れずその関係が永く続く様見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの施設に移った方が遊びに来てくれます。今は当施設に長く居る方が多くなり近々での契約終了が無いので相談支援はありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の「私の姿気持ちシート」を使用しご本人の思い希望の実現をするためのカンファレンスを実施しています。	思いや意向を知るにはコミュニケーションが第一と捉え、積極的に話しかけ日常の会話から汲み取っている。「私の姿気持ちシート」に利用者・家族・職員の三方向からの意見を記入し、カンファレンスやホーム会議で共有して、思いの把握と実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新人職員でも入居者様の生活歴がすぐに分かるように居室担当が今までの状況を簡単にまとめたものを作り情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録の他に日々の変化ご本人の希望ご家族の意見Drのアドバイスなど記入できるものを作り情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族Drなどと話し合い複数の職員によるカンファレンスにより介護計画を作成しています。	本人・家族の希望を基に、毎日の介護記録や申し送り帳、医師のアドバイスなどを踏まえ管理者・ケアマネ・担当職員・当日の職員の複数でカンファレンスを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別申し送り書の活用によりより細かいケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の来訪が多い施設であり、その利点を生かしてお話する機会を増やし、ニーズに対応するよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り、お楽しみ会などの招待状が届きません。農家の方が家庭菜園のやり方を教えてくれたり雑草取りをしてくれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は現在2か所お願いしています。今までは日中のみ対応お願いしていましたが重度化に伴い24時間対応の専門クリニックに比重を移していくつもりです。	月2回の訪問医と、24時間対応の専門医の2か所と契約している。週1回の看護師の健康チェック、週3回のマッサージ師等が訪れている。眼科等の専門医通院は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護での健康チェックと24時間連絡可能な看護師の常駐が目の前のシルバー訪問看護で行われています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同系列の鎌ヶ谷総合病院の医療体制で安心して治療ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については未だ研修のみです。ご家族の意向はすべて伺っておりまた定期的に再確認もしています。	入居時に、急変時・終末期に関する意思確認を行っている。現在24時間対応の医師と契約しており、特別な医療が必要でなければ、ホームで過ごして頂けることを話している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員にAEDの操作と救急救命研修を義務付けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の自主消防訓練の実施と年2回の消防立会い訓練を実施しています。	年2回の消防立会い訓練、および毎月の自主消防訓練を実施している。夜間想定ではどのようにしたら安全に避難できるか等の確認をしている。近隣には声掛けし、協力体制作りに努めている。水・食料品などは備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通じ職員が意識付けできる環境整備をし使用禁止用語を明示することでそれをより確実に実行できるようにしています。	友達言葉や馴れ馴れしい言葉は使わない、呼び方は苗字で同姓の場合は名前と呼ぶなどしている。普段から言葉遣いに留意しており、家族が耳にした時に不快感の無い言葉遣いが出来るよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では必ずご本人の希望をお聞きし強制的に押し付けたりすることはありません。自己決定支援をこころがけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の暮らしペースを考慮しながら施設側の仕事は臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方は職員が強制することはありません。難しい方は声掛けをしながら支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来上がったものを盛りつけたりお茶をいれていただいたり職員と楽しみながら食事をしています。	手伝いの出来る方はテーブル拭き等している。毎食、職員調理の出来たてご飯が供され、また本人の状態に応じた食形態の提供や食事介助をしている。外食やデリバリー・餃子パーティー等、目先を変えたりして食欲増進に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分と食事量のチェックはきちんと管理しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは必ず実施しています。ご自分で出来る方も職員が必ず仕上げ磨きをし、訪問歯科のチェックをうけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間による声掛け誘導をしおむつを使用せずにトイレでの排泄が出来るように支援しています。実際におむつからリハビリパンツに戻った方がいます。	個々の排泄リズムから排泄時間を把握し、声掛け・誘導によりおむつの方も含め、トイレでの排泄が出来るように支援している。コミュニケーションを良く取り信頼関係を深め、細やかな声掛け等の支援により、おむつが外れた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には根菜類が多く入りヨーグルトが付くことも多いです。また毎朝ラジオ体操を日課にし体を動かす工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立の入居者様はご自分で入浴日を決めることができます。ご希望であれば毎日の入浴も可能です。	一人週2~3回の入浴を基本としているが、嫌がる方には時間や日を替えたりの入浴支援をしている。希望があれば入浴日の変更や毎日入浴にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分の意思で午睡をしたり安眠のために体を動かす外気欲をするなどそれぞれのご希望に合わせて職員介助で運動しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつも最新の服薬情報をファイルし職員が情報を共有できるようにしています。また服薬の支援にもつとめています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事仕分け、後方付け、洗濯物干し、たたむ、ゴミ出し、などは声掛けすることなしで完全に定着しています。楽しみとしてはイベントレクやボランティアとの交流を必ず月に一回実施して楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周りの散歩、食事に行く、買い物に行くなど出来る限り対応しています。また施設での必需品の買い物なども入居者様と一緒に基本となっています。	天気の良い日は梨畑周りを外気浴を兼ねてゆっくり散歩している。花見や町会の夕涼み会、外食、買い物時に一緒に行くなどなるべく外に出る機会が増えるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお小遣いをお預かりしており必要に応じて買い物に行くことは可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で電話をすることはあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には入居者様の笑顔の写真や来設してくれたボランティアの方々の写真が貼ってあり思い出となっています。またリビングでは抒情歌、童謡、演歌などがかかっています。	玄関、廊下、居間等の共用の空間は広く、きれいに掃除されている。オープンキッチンからは調理中も利用者の様子の見守りが出来ている。居間の壁等には催し事の利用者やボランティアの笑顔の写真が掲示され、抒情歌や童謡等のBGMが流され、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時以外では席を決めずその時々で自分の好きな席に座り歓談する姿がみうけられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具をそのまま使うことで自宅での生活と変わりなく安心して過ごしていただいています。	利用者が入居前から使用していた馴染みの家具や生活用品等を持ち込み好みに配置し、今までの生活スタイルを継続し、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分は広い空間を生かして動きやすくしています。またトイレに表札をつけるなど介助なしでも動けるようにしています。		